

議長定例記者会見 会見録

日時：平成 23 年 3 月 1 日 11 時 00 分～

場所：全員協議会室

1 発表事項

- ・ 発表項目なし

（議長）それでは、定例記者会見を始めさせていただきたいと思います。最初に私のほうからのメッセージといたしまして、県内の鳥インフルエンザの発生につきまして、少し話をさせていただきたいと思います。平成 22 年度は全国各地で鳥インフルエンザの感染が報告されており、県内におきましても、2 月 15 日に紀宝町、26 日には南伊勢町の養鶏場で高病原性鳥インフルエンザの感染が確認されたところでございます。鶏を全数処分することになりました両養鶏場の関係者の方には大変お気の毒で、心からお見舞い申し上げたいと思います。また、直ちに知事を本部長とする対策本部が設置されまして、当該養鶏場における殺処分等の拡大防止対策が行われておりますが、自衛隊や町職員、また、執行部の職員などが迅速な作業に当たっておられまして、心から感謝を申し上げるところでございます。紀宝町の養鶏場につきましては既に作業が完了しておりまして、周辺の養鶏場での感染は確認されておらず、拡大防止対策が適切に実施されたと考えております。南伊勢町の養鶏場についても、周辺への感染拡大を防止するよう、殺処分、消毒の徹底等の対策が実施されているところでございます。私といたしましては、感染拡大の防止対策が迅速に実施されるとともに、養鶏業者への支援や風評被害の防止が適切に実施されるよう、注視していきたいと考えております。また、急遽必要となった補正予算につきましては、適切に対応していきたいと考えておるところです。メッセージとしては以上でございます。その他のことは特に報告事項等ございませんので、あとまた皆様方からのご質問等、お受けさせていただきながら進めさせていただきたいと思います。

2 質疑応答

（質問）まず、知事選に絡んでお伺いしたかったんですけども。

（議長）まず、鳥インフルエンザから。

(質問)鳥インフルエンザからでいいですか。鳥インフルエンザの関係で、今、お伺いしたようにですね、県の対応については、予算も進めていきたいというお話だったんですけども、今後の対応についての課題とか、あと今後どういったことを期待されるのかってものがもしあれば。

(議長)私のほうから県議会の各会派のほうには、当面感染拡大に24時間、本当にご努力いただいておりますので、各会派のご代表とか議員が個々に、現地調査等に行くことは少し自粛をしていただきたいということをお願いをさせていただきまして、全会派ご了解をいただいたところです。議会としては、やはり農水商工の常任委員会を中心に議会としてきちんと対応していかなければいけないと思っております、末松委員長のほうに委員会としての対応策を早急に考えるようにという指示を出させていただきました。それを受けまして3月2日に常任委員会を急遽開いて、その対応等、委員協議をしていただくということが決まっております。その上で議会としてどうしていくのかということも考えさせていただきたいと思っておりますし、紀宝町、それから今回の南伊勢町等含めて感染経路はなかなか難しいと思っておりますが、その対策が本当に適切であったのかどうか、また、何らかの問題点があるのか、また課題等があるのか、ということも議会としてしっかりと検証させていただき、今後の対策に生かしていきたいとそのように思っております。

(質問)各会派の自粛申し入れはいつされたんですか。

(議長)南伊勢町の発生が報じられたその日の夜です。

(質問)それは南伊勢町の分ですよ。

(議長)南伊勢町です。

(質問)紀宝町の時もされてますか。

(議長)紀宝町はしてなかったんです。してませんでしたから。

(質問)某最大会派が行った。

(議長)行かれまして、それはそれで議会の会派活動としては一つは適切なものだと思いますが、やはりタイミングですとか、同じ行くにしても。そういう

こともありますから、やはり現地の事情等十分に配慮した上でという反省もございまして、今回は特に規模が前回の紀宝町に比べると非常に大がかりでございますから、それだけに議会としては慎重な対応をお願いをしたということです。

（質問）ということは、紀宝町の時に某最大会派が行かれて、あの時も確か事前にはできたら行かないようにとの見合わせはあったけども、一応そこがいきとどかなかったのか、まあ行かれてですね、今回はそこを全会派に先んじて、まあそういう形で言われたということですか。

（議長）いや、紀宝町の時は、行かないようにというような指示は出しておりません。出しておりませんが、会派だけでなしに、政党関係、党もいろいろ行かれて、相当現地の方の負担もあったというふうなことも聞いておりますので、今回はやはり議会として、きちんと議会が対応していくということを再度確認をさせていただいたということです。

（質問）今のところ、その禁を破って行こうというところはないわけですか。

（議長）ありません。よく守っていただいております。

（質問）議長の統率力と。

（議長）いやいやいや。

（質問）リーダーシップ。

（議長）いやそんなものではなしに、常識論として、皆さんご納得いただいているのではないかと思います。

（質問）各会派間で行かない約束だったのに、新政みえだけは行ったというような、いろんな議会内部で発言を耳にしたんですが、そういった取り決めというのは本当に実際なかったんですか。

（議長）ありませんでした。副議長とは、どうしようかねという話は少しはしましたけれども、行かないようにというそういうふうな指示は出しておりません。ですから、例えば公明党さんですか、そういうところも、県外も含めて

行かれたり、それから自民党の国会の先生と行かれたり、民主党の国会の先生と行かれたり、政党とそれから議員がそれぞれ動いたということは間違いの無い事実ですので、それがだめだということではなしに、そういうことも踏まえながら、今回特に規模が大きいもので、地元に対する、現地に対する負担をできるだけ少なくするという意味でもありますので、自肅をお願いをさせていただいたということです。

（質問）4月10日投開票の知事選についてなんですけれども、昨夜も一人名乗りをあげられまして、三人の方が今知事選に向けて活動されています。これについてどういうふうにご覧になっているかということとですね、今地方議会が関心を集める中での知事選となるわけですけれども、地方選となるわけですけれども、どんな議論が起こることに期待をされているかということも含めてお願いします。

（議長）三人の方が立候補していただけるということですから、大いに政策論議をしていただいて、県民に明確な選択肢を示していただければ誠にありがたいと思います。津の市長の松田さんは、私は昔からよく知っておりますが、県議も経験をされておりますので、議会のこともよくご存知だろうと当然思いますし、鈴木英敬さんもなかなか立派な方でございますから、共産党の方はよく知りませんが、大いに議論が展開されるんではないかと期待をいたしております。とりわけ、今地方とですね、首長と議会との関係、また議会と住民との関係等が非常に厳しく全国的に問われている時だけに、ぜひ知事選の中においても、首長と議会との関係、どうあるべきかという議論もぜひお願いをしたいところですので、二元代表制ではございますけれども、それぞれの長の議会に対する考え方というものが今後の議会活動に大きく影響してまいりますので、ぜひその点も議論をしていただければ非常にありがたいと思います。

（質問）一部報道によると、事実上の自民党と民主党が直接対決をするのは、北海道と三重だということになっているとのことなんですけれども、事実上そういうことになったことに関しては、どのように受け止めてらっしゃるのでしょうか。

（議長）今、既成政党に対する不信感というのは、全国的に非常に高いものですから、そういうふうにならば二大政党が直接対決するところが非常に数がないということになったのかなあとこう思っています。松田さんのほうもまだ、正式に民主の支援だとか、支持になるのか、何になるのかよく知りませんが、

それが決まったともいうふうにも聞いておりませんので、二大政党の直接対決ということになるのかどうか、少し分からないところがありますが、本来、国のほうの政党政治では二大政党というのは非常に、一定のこう理想的な姿なのかなあところっております。ただ、それがそのまま直接、地方の政治に持ち込まれるということに対しては、少し私自身も疑問とするところがありますので、二大政党の直接対決という形が本当に良いのかどうかというのは、もう少し考えるべきではないかなところと思います。

（質問）首長と議会との関係が今、問われているので、大いにその部分が議論されるような知事選になってほしいということだったのですが、特に松田さんの場合は、地域ですね、首長から推されるという形で出馬を表明されてますが、その辺についての議長の考え方というのは。

（議長）これはいい形だなと思っています。野呂県政も、北川さんのときの反省を踏まえて、市町との関係というのは非常に改善をされて、市町とパートナーシップで連携を取りながら県政全体を進めてこられました。そういう中で、今度の知事選が、そういう市長や町長、そういう地域のそれぞれのリーダーの方々から推される形で候補者が出てきたというのは、新しい形ではありますけれども、一つのいい形ではないかなと積極的に評価したいと思います。

（質問）事実上の民主隠しみたいになっているわけですね。この点についてはどう思いますか。

（議長）知事選の擁立劇の裏側というのは、ほとんど私は知りませんので、そういうことについては論評は避けたいところと思いますが、いずれにしても、そういう正式にそういう首長、市長や町長の推薦で出られたということは新しい形ですが、いいことだなあところと思っています。

（質問）首長と議会の関係なんですけど、これ逆にまあ、ワンクッション津市長をやられたとはいえ、元同じ新政みえの県会議員ですかね。それからその、これは国会議員とかになるんだったらこれは一つ離れるんですけど、同じ県議会の中で、県議会对知事っていう、もし松田さんが当選したらそうなるんですが、その辺のやりにくさとか、あるいはその馴れ合いになるんじゃないとか、そういう県民の目の危機感みたいなものはお持ちじゃないですか。

（議長）今の野呂知事も、一番最初、選挙に出られたときは、新政みえ、連合

このスタイルで推させていただきます知事になりました。しかし、野呂さんが知事になった瞬間、私どもも一定の距離をきちんと保って、建設的野党の立場で議会对知事という二元代表制の、基本をしっかりと踏まえた上での対応、付き合いを今日までしてまいりました。野呂さんからは、もう少々不満の声もありまして、もっと優しくしてもらえと思ったら、お前たちが一番厳しかったという、ご不満の声もありましたけれども、それくらいでちょうど良いのかなあと思っています。ですから、そういう意味で松田さんがもし、当選をされたとしても、それは旧知の方ですし、よく知っておりますが、それと知事対議会の関係とは別の話ですので、きちんと対応していきたいと思います。

(質問) 但し、野呂さんは県議じゃなかったですね。

(議長) まあ県議ではなかったですけども、新進党の国会議員のときからのお付き合いがございましたので、そういう意味では、よく知っていた方ですね。

(質問) 同じ会派の県議として、視察も一緒に行き、議員視察等、そこで同じ釜の飯を食った人が知事になるというのは、よりやりにくさはないですか。

(議長) そりゃきちんと割り切れると思います。どなたが知事になられようと、どういう経緯の方が知事になられようと、なった瞬間、三重県知事ですから、知事対議会の関係というものをしっかりと守っていききたいと思います。

(質問) 県議から知事になるというのは、たぶん今回、三重県の場合、初めてですか、もしなられた場合。それで今の野呂知事も地方もできたら議院内閣制みたいなことをおっしゃって、これはある意味そういうスタイル的なものに今後なり得るというふうに思われますか。

(議長) これは少し、松田さんとは話はしたんですが、やはり松田さんの方はいわゆる今、大阪だとか名古屋で出てきているような地域政党ということは考えておられません。まだ首長連合のようなところとの連携というふうな、まあ詳しくは聞いておりませんので分かりませんが、そのような受け止め方を私はしましたので、どういうものが出来てくるのか、それは上がってきたときに改めて判断させていただきたいと思います。

(質問) 今回、骨格的予算ではありますけれども、議会に提出された予算をどのように評価されているか、新年度予算案についてお聞かせください。

(議長) 予算、補正じゃなくて来年度予算の話ですね。野呂さん相当がんばっていただいたと思っております。北川さんから野呂さんに替わったときに比べれば、相当自由度が増えたかなと。新しい知事の裁量の部分が少し増えたということでの評価はさせていただきたいと思えますし、議会側から出来るだけ野呂カラーを抑えよとまではなかなか言えないんですけれども、美し国おこし・三重ですとか、そういうものも少し抑えていただいて、一定の額をつくりあげていただいたと、議会の話にもしっかり耳を傾けていただいたと、いろいろとご不満はあるでしょうけれども、三次戦略等のご不満はあるかもわかりませんが、議会の話にしっかりと耳を傾けていただいて、予算編成作業をしていただいたなということで評価したいと思います。

(質問) つい先日、原子力発電所の関係でいろいろまあ報道が出ましたけれども、今回の知事選でもまあ、密かな陰の争点みたいになりうる可能性はあると思いますが、その先日の報道で、実際現地で中電が動き始めている等々の動き、以前の会見でも出ましたけれども、その辺をもう一度改めて。

(議長) あの、中電の方からは具体的な土地の名前ですとか、地名というのは出ておりませんので、まだ一般論の枠を越えていないのかなとこう思います。ただ、CO₂の削減の問題ですとか、将来のエネルギーのことを考えますと、原発というのは一つの大きな選択肢であることは間違いはないわけですから、タブー視するのではなしに、常に、議論しながら正しい選択をしていくことが大切ではないかと思えます。

ただ、三重県には、四原則三条件という、県民の合意を得たものがございませぬから、やはりこれをきちんとクリアできることでなければ、原発の立地は今の時点ではないとこう思っております。

(質問) 原発関連で質問なんですけれども。先ほど原発のメリットとしてCO₂の削減などの効果があるというふうにおっしゃいましたけれども、その時代時代によっていろいろな環境が変わってくると思いますが、その三重県にある四原則三条件に関しても定期的な見直しや検討が必要ではないかという指摘に関してはどのようにお考えでしょうか。

(議長) 議会側から、見直しを提言するつもりは今のところありません。やはり、地元のほうからそういう声が上がってきた、その対象と言われているような地域から、そういった声が上がってきた時に議会としては議論をすべきであろうとこう思っております、議会側から原発誘致とか原発立地についてそう

いう議論をリードしていくというような立場にはないと思っています。ただ、CO2 だけではなく、例えば今の中東等の情勢を見ましても、エネルギーというのは非常に厳しい部分もございますから、多角的なエネルギー政策というのは常に国として、国策として追求すべきだろうと思っておりますので、そういう意味で議員の中で、三重県の中でも議論があればと思っています。

(質問) じゃあ、切り口変えてですけども、前もちょっとお聞きしましたけど、三重県議会が原発に関して、芦浜ですけどね、その推進決議を生きたままだ残されてますね。もし白紙というならば、本来白紙撤回決議をしなければいけないけれども、そこは生きたまます。ただし、この芦浜という言葉は既に消えています。なぜかという、旧紀勢町と旧南島町の両町にまたがる芦浜原発ですから、それが市町村合併で名前も変わっているわけだから、芦浜という、芦浜原発計画という計画自身が消えているんで、仮にそこに新原発を作るにしても、その新たな決議が必要になるのか、それともこの芦浜原発推進決議、県議会がやったやつが生きているのか、議会としてはどういうお考えですか。

(議長) あの推進決議を行ったのは間違いはありませんけれども、やっぱり四原則三条件が県民の中で合意されたという時点で推進決議というのは、その時点で止まっているものだところ思っております。一旦決議したからそれは未来永劫全く変わらずに同じ効力を有するというのではなく、さまざまな条件の変化の中で、そういう決議の意味合いというのものも自ずから変わってくるものだところ思っております。今その推進決議を議会の中で持ち出して、かつて議会がこれを推進したんだから、当然、三重県議会は推進の立場じゃないか、という論にはくみをいたしません。やはり、その後に出てきたさまざまな動き、それを議会として容認し、県民の方々が合意をしているということならば、その後の動きのほうがより重いと思っております。

(質問) いや、ただ、世間的にはですね、他県議会とかも含めて三重県議会を見た場合に、推進決議が残っているというのは、その中身はともかくとしてです。形の看板だけは残るわけじゃないですか。だとすれば、ニュートラルに戻すには、本来、白紙撤回決議をやるべきだと思うんですけど。その辺の手続き等はいかがです。

(議長) 今、そういう白紙撤回決議を、改めてするという考え方もありません。各派、また各議員のほうからもそういう要望も出てきておりません。それはやはり何度も申し上げますが、四原則三条件というものを議会もきちんとそれを

容認したという時点で、推進決議の意味合いが変わったというふうに皆さんが理解されているからだろうと思います。

（質問）地元の理解、合意っていう中身は、具体的にはどういう形で議長はお考えですか。普通ならば、地元の町議会なりの議決及び県議会の議決という形が、手順があるから、前、かつて推進決議したわけですよ。今回も手続きは同じですよ。

（議長）ですから、もし、そういう今言われているような当該の地域の方々からそういうふうなお話があがってくるようならば、議会としてその時点で議論をさせていただくということになります。本当に今言われているような、四原則三条件をちゃんとクリアできるのかどうか、こういうことも含めて議論させていただきますし、当面、中部電力さんがどういう働きかけをされるか、まったく分かりませんが、そういう動きの中でいろんな議論が出てくると思いますので、そこら辺のところは慎重に議会としては、そういう議論を賜りながら対応していきたいと思います。

（質問）新政みえの萩野代表が今期限りでの引退を表明されることに対するコメントをお願いします。

（議長）昨日、本人からその話を聞きまして大変驚いております。当然、次の県議選にも立たれるものだと、立候補されるものだというふうに理解をいたしておりましただけに、また、新政みえの代表というだけではなしに、県議会の中で大きな役割をいろいろ果たしてきていただいていますし、現に今も果たしていただいておりますから、そういう方が引退というのは非常に私自身にとっては残念であるということです。ご本人は相前から決めていたんだというふうなお話でございましたけれども、まったくそういうそぶりもありませんでしたので、昨日聞いてびっくりしたというのが実情です。

（質問）議長は、新政みえの一会派構成員として、それをお留めになったんですか、それとも背中から押した。

（議長）いや留めたんですが、もうこういう立候補するかしないかというような決断は、一度そういった腹に決めてしまいますと、いくら留めてもこれはもう留まるものではなしに、ご本人は留めましたけれども、もうそのまま決定どおり実行されるということです。

(質問)理由としては、前から決めていたということをおっしゃっただけですか。

(議長)ええ、いつから決めただと言いましたら、4年前に決めたところ言っていましたけれども、それは本当かどうかよく分かりませんが。

(質問)新政みえさんは、自民みらいさんもそうですけど、一応、当然過半数を取るとい、この改選において、そこを目指してやっておられるんですけど、よりその部分というのが、逆にリーダーシップをとるべき代表が今期限りという話になると、若干勢力が削がれる部分があるじゃないですか。その辺はどうされますか。

(議長)4月29日まで代表を続けるということですから、ある意味では身軽になって全県的に飛び回って、応援をしていただけないかなと思うっております。なかなか厳しい選挙区もたくさんございますから、萩野代表がそこへ入られて、少しでも選挙情勢がよくなればということは期待はしています。新政みえの一員として。

来月4月にも、定例記者会見をさせていただきます。当選していようと、落選していようと立ちますので。

(質問)4月の何日ですか。

(議長)14日くらいを想定しています。選挙が終わって、当選証書はもらえるかどうか分かりませんが、まあ一応もらったとして、それから津の市長選が始まる前にやらせていただきたいと思っています。副議長に相談しましたら、副議長もお供しますということですから、副議長も出てきます。

(質問)5月は新正副議長になるんですか。

(議長)そうです。5月の連休明けが役選ですので、そこで新しい正副議長が決まってということですね。段取りとしては。

(以上)11:27 終了